

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、天竜圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和2年8月11日（火）13時30分から15時まで
参加者	委員：9人 事務局：5人 その他：8人（高齢者福祉課：2人、区長寿保険課：3人包括支援センター天竜：2人、市社協地域支援課 1人）
場所	天竜区役所 21・22会議室
内容	<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ 浜松市高齢者福祉課 亀田岳史 浜松市社会福祉協議会 天竜地区センター長 太田泰司郎</p> <p>3. 昨年度活動報告と今年度取組について →事務局より資料を使い説明後、各委員より補足</p> <p>【上阿多古地区 金指委員】 昨年11月から移動販売に来てもらい始めている。 下阿多古の様子を見聞きして、移動販売車が人の集まるところに来てもらうことが大切で、人が集まらなるとじり貧になると考えている。また地区社協おぜん立てしていくよりも地元住民に主導権を握ってもらう方が長続きすると考え、移動販売の啓発や利用方法を周知して住民が主体になって移動販売を利用している。</p> <p>【下阿多古地区 松本委員】 見切り発車のなところもあるが、昨年度5～6月に移動販売が始まり、石神、上野、青谷、米沢、両島、渡ヶ島に来てくれている。また、米沢以外はサロン開催日に合わせて移動販売車が来る。 設営準備などを地区社協関係者が協力している。 サロン参加者にとって楽しみにもなっており、商品を見て自分で選び、買うということは一つの張り合いになっている。移動販売で買い物することは移動販売が続くために必要という意識が参加者に育ってきている。家の前での販売や個別の対応があったら、なおよいと思う。</p> <p>【竜川地区 長田委員】 大雨により土砂災害で道路が寸断され、復旧工事が続いている。夜間に被害が出たため子ども達が学校に取り残されるようなことがなかったことが不幸中の幸いだった。道路工事の関係があり、買い物も春野方面に回り道をして買い物に行っている地域もある。災害備蓄があったこともあり1週間程度は買物をしなくとも持ちこたえられる様子である。現在、7世帯12名の地域であるが、電話は通じているので、電話で安否確認を取っている。サロンには春野方面を経由して参加している方もいる。</p> <p>【二俣地区 野尻委員】 地域の反応については、新型コロナの影響もあり地域に反響を聞く機会が無かったため、まだ良くわからない。 しかし、アンケートを行ったことで地域にも「力になりたい」と思っている人が多くいることが分かった。それが分かっただけでも、地域アンケートを行ってよかった。 現在の二俣地区の課題として、ボランティアコーナーが無いことがあげられる。地域のボランティア活動の拠点となる、ボランティアコーナーを作りたい。</p>

【春野地区 鈴木委員】

春野は対象を高齢者に絞ってサロン参加者 200 人程度に聞き取りを行う形でのアンケート実施となった。高齢者の福祉ニーズを調べた。5～6 年前に行った物と今回行った物を比べても高齢者が必要なことは変わらないと思うが、分析して生活支援体制に繋げていきたい。

【春野地区 小澤委員】

支援者として地域で支援を行っていく際の課題として、地域で悩みを抱えている人を見つけてもなかなか踏み込んでいけないというのを感じている。理由としては、訪問したとしても、ご本人が家にいないことが多かったり、支援者にも自分の生活がある中で出来ることには限界がある等がある。

【熊地区 大桑委員】

熊地区で買い物が出来る場所が、道の駅とスズキヤ商店しかない。その為、買い物については、自分たちが車を使って買い物に行く。独居や夫婦二人世帯で購買欲が少ないこともあり、地区外に住む子供等が週一で買ってきてくれる等で対応している。

ただ、生活のために必要なものを一人で買いに行くことと友達と買い物に行くのとでは意味合いが異なっていると感じる。ある時、近所のおばあちゃんを連れて一緒に買い物へ行った。その際、そのおばあちゃんは、いつもよりも活発に動いていて、近所の知り合い（友達）と一緒に買い物をするのを楽しんでいるように見えた。

物を見て、自分で買い物をすることはリフレッシュになるのだと感じた。

買い物支援として「移動販売」などがあるが、熊地区は部落ごとに特色も違い、地域に合ったものを持ってきてもらえないと、住民も買うことができない。その為、入ってくる商店は部落ごとのニーズを分かっている必要があると思う。

熊地区では4年間の補助事業として「高齢長寿の村 くんま」という活動を開始したが、これまでコロナの影響で動けておらず、8/2 に初めて活動（ノルディックウォーク）を行うことが出来た。熊地区では、みな自分のまわりにいろいろあるが、それが活用できていない。（使われずに荒れていく農地などに対して、不安が生まれていく一方である。）その為、体験活動等を取り入れつつこの活動を始めた。

【光明地区 松井委員】

百古里、鏡山などは足の問題があるが今までの人間関係もあって助けあえていると思う。しかし、人間関係そのものが高齢化してきている。今後、誰が支えるのかを苦慮している。

3. 意見交換

【春野地区 鈴木委員】

市内の他地区に比べて、天竜区は遅れているのか気になっている。市内の他地区の状況はどうなっているのか？どこを目指していくのか。

【浜松市高齢者福祉課 亀田】

天竜区が特段遅れているということはない。

協議体の内容は地区ごとによって違い、ある地区では、既に行っている家事支援やサロン活動をよりよくしていくための話し合いの場として活用している。また、それらを行っていない地区では、今後活動を行って行く為に、既に活動を行っている地区を研修等に招き、話を聞く等の活動を行っている。

協議体は、具体的に何か事業を始め、完成したらおしまいというものではない。集まって地域のことについて話し合いを行うことが協議体の意味である。

	<p>すでに活動を行っている地域はそのまま活動を続けていってもらい、やってない地域は話し合いつつ出来ることを行ってほしい。(できないことをやっても続かないので、無理はしないで欲しい)</p> <p>【浜松市社協地域支援課 木俣】 浜松市内では22圏域、協議体が存在している。進捗としては、地域資源を洗い出し、課題が分かってきた圏域が多い状況である。 地域資源の洗い出しに関しては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大きい地図を用いて課題や資源を整理する。 ②課題について、委員だけでなく地域の他の人も同様に考えているのか疑問が挙がった為、地域に向けてアンケートを実施する、広報誌を作るといった形で進めている圏域もある。 <p>課題が分かってきた圏域については、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①すでにその課題に対して支援や事業を行っている地区に見学等へ行き、その後しくみを作り始める。 ②地域アンケートを実施して、課題について理解を深める。 <p>といった形で進めている圏域もある。</p> <p>(4) 次回の協議会の日程について 令和2年度末を予定</p> <p>(5) 閉会</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>春野地域については、アンケートを基に地域の課題の確認と支援の方法などについて検討</p> <p>熊地域については、地域アンケートを基に課題検討を行い、熊地域の特徴に沿った支援方法を検討していく。</p>